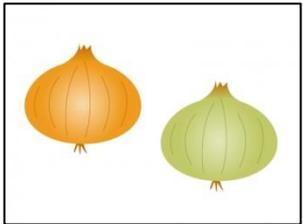


まきどき・植えどき・収穫どき  
**どきどき情報2月**

～2月の野菜・花きの管理～

種まき	栽培のポイント																		
<p><b>野菜</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクサイ (5月～7月収穫)</li> <li>・ブロッコリー</li> <li>・カリフラワー</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・キャベツ (6～7月収穫)</li> <li>・セルリー</li> </ul> <p>など</p> <p><b>花き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストック</li> <li>・デルフィニウム</li> </ul> <p>など</p>	<p>○タマネギの追肥・灌水</p>  <p>タマネギの秋まき栽培では、暖かくなってくると3月中旬頃から養分の吸収量が急激に増加し、生育が進むようになります。また、<u>玉の肥大は必要とする日長と温度条件がそろったとき（泉州黄などの晩生品種であれば20℃程度）から開始されます。</u>上田であれば4月下旬頃が開始時期です。しかし、玉の肥大が開始しても、その時点で茎葉が十分に生育していないと、結果的に小玉になってしまいます。したがって、肥大が始まる前に肥料効果が出るよう、適切な時期に追肥をすることが必要です。</p> <p>追肥は2月中旬頃から2～3回に分けて行います（表1）。標高の低い所であれば3月中旬までに、高い所でも4月中旬までには終わらせましょう。追肥時期が遅すぎると、今度は青立ちによる収穫遅れや軟弱玉となり、腐敗が増加します。</p> <p>表1：追肥量の目安（10㎡あたりg）</p> <table border="1" data-bbox="375 1097 1340 1220"> <thead> <tr> <th>成分</th> <th>追肥量 (g)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N</td> <td>100～150</td> <td>追肥N30号であれば</td> </tr> <tr> <td>K</td> <td>100～125</td> <td>700～1000gを2～3回に分けて施肥</td> </tr> </tbody> </table> <p>※追肥量（g）は成分量で表記</p> <p>また、タマネギは浅く根を張る（浅根性といいます）作物であり、乾燥に弱いです。特に、肥大開始期から最盛期（4月下旬～6月上旬）に十分な水分を吸収できないと小玉になってしまいます。この時期に晴れの日が続く場合は畦間灌水等を行うとよいでしょう。</p> <p>○チンゲンサイの播種</p>  <p>チンゲンサイはハクサイやダイコンと同じように、<u>種子の頃から低温に感応して花芽分化します。</u>例えば、春まき栽培作型で、温度が低すぎると、とう立ちしてしまう危険があるということです。したがって、作型に合った品種選定が重要になります（表2）。なお、育苗期間中は最低でも15℃以上を保つように注意しましょう。</p> <p>表2：チンゲンサイの作型と品種</p> <table border="1" data-bbox="550 1702 1492 1825"> <thead> <tr> <th>作型</th> <th>播種期</th> <th>適品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早春まきマルチ</td> <td>2月中～3月上</td> <td>青美、ニイハオ114号</td> </tr> <tr> <td>春まきマルチ</td> <td>3月上～5月中</td> <td>青帝、ルーワン</td> </tr> </tbody> </table>	成分	追肥量 (g)	備考	N	100～150	追肥N30号であれば	K	100～125	700～1000gを2～3回に分けて施肥	作型	播種期	適品種	早春まきマルチ	2月中～3月上	青美、ニイハオ114号	春まきマルチ	3月上～5月中	青帝、ルーワン
成分	追肥量 (g)	備考																	
N	100～150	追肥N30号であれば																	
K	100～125	700～1000gを2～3回に分けて施肥																	
作型	播種期	適品種																	
早春まきマルチ	2月中～3月上	青美、ニイハオ114号																	
春まきマルチ	3月上～5月中	青帝、ルーワン																	

○トルコギキョウの定植前後の管理



6月～7月切り作型の定植時期になります。基肥は定植時期の2週間以上前に施用します。活着を促進する為に、定植1週間ほど前には灌水し、フラワーネットを張った後、ビニールシートやトンネル被覆をして地温の上昇に努めましょう。

トルコギキョウの苗は本葉4～6枚が定植時期です。定植床の気温に順応させるため、定植1週間前には苗をハウスに持ち込んでおきましょう。定植は可能な限り暖かい曇りの日に行いましょう。その後、ビニールトンネルをかけ、更に不織布や保温性の高い資材を被覆します。

また、低温期に発生が多い病害としては根腐病（土壌病害）があります。症状が進むとしおれと回復を繰り返し、やがて萎凋枯死します。罹病した株は除去し、ほ場内に残さないようにしましょう。

# ○あさつゆ土壤肥料講座～第1回（1月19日開催）のおさらい～

## 1. 土壌と作物の関わりについて

### ☆土壌とは

・母材（岩石など）が気候や生物などの影響を受け、長い時間をかけて生成されたもの。分解が進んでいないものはれきや砂であり、土壌中に微生物が十分に存在し、分解が進むと腐植（有機物：黒い土は腐植が多い）が形成される。

・土壌中の性質（粘土の割合）によって5つの土性に分かれる（図1）。例えば砂土の場合は堆肥などの有機物を補給し、保肥力・保水力を改善する必要がある。

・母材の種類によって黒ボク土、灰色低地土、褐色森林土などのように区別される。土壌ごとに酸性の程度や保水性、保肥性などが異なるので、土壌に合った管理をする必要がある。

ガラガラとほとんど砂だけの感じ	大部分（70～80%）が砂の感じで、わずかに粘土を感じる	砂と粘土が半々の感じ	大部分は粘土で、一部（20～30%）砂を感じる	ほとんど砂を感じないでヌルヌルした粘土の感じが強い
12.5%以下	12.5～25.0%	25.0～37.5%	37.5～50.0	50%以上
砂土	砂壤土	壤土	埴壤土	埴土
固めることができない	固めることはできるが、棒にはできない	鉛筆くらいの太さにできる	マッチ棒くらいの太さにできる	コヨリのように細長くなる。
				

図1：土性の違い

### ☆土壌の物理性・化学性・生物性

・品質の高い作物を作るためには地力の高い土壌を作ることが重要。物理性・化学性・生物性に優れた土づくりをする必要がある。

①物理性…団粒構造を促進することで、排水性・保水性・保肥力等に優れた土壌が形成される。植物性堆肥（バークや腐葉土など）は物理性改善効果大きい。

②化学性…土壌診断を行い、酸度（pH）、養分量（EC）、養分保持力（CEC）などを把握する。例えば pH は多くの作物が弱酸性（6.0～6.5）を好む。pH が違うと、酸性の程度は 10 倍異なるので注意が必要。

③生物性…団粒構造はミミズや微生物などの土壌動物によって作られる。また、特定の作物を連続して栽培すると、土壌中の微生物バランスが崩れて連作障害を引き起こす。例えばナス科（トマト、ナス、ジャガイモ）は連作に弱いので、接ぎ木苗を使用したり、輪作を行う必要がある。

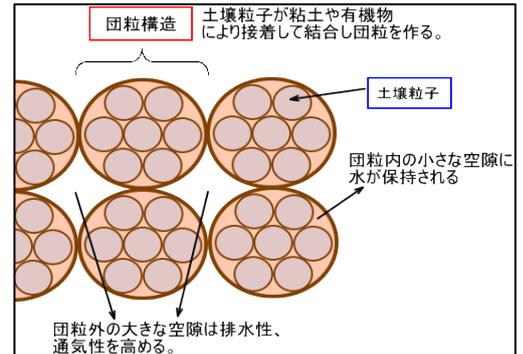


図2：団粒構造

## 2. 作物に必要な養分と肥料について

### ☆肥料の三要素

・窒素（N）、リン酸（P）、カリウム（K）は、作物が生長するために特に多くの量を必要とする。したがってこれらを肥料の三要素という。作物が必要とする元素は全部で 17 ある。



図3：ハクサイのゴマ症（窒素過剰症）

①窒素…葉緑素の主成分で葉肥とも言われる。不足すると葉が小さくなったり、黄化し、過剰にあると葉色が濃くなり、病気にかかりやすくなる。

②リン酸…細胞分裂に必要であり、実肥とも言われる。細胞分裂は主に生育初期に行われるので、基肥施用が基本である。不足すると、植物が大きくなり、花や実が着きにくくなる。逆に過剰にあると鉄欠乏等を助長する。

③カリウム…葉や茎、根を丈夫にする働きがあり、根肥とも言われる。欠乏すると葉脈間の黄化や褐色斑点が起り、過剰にあると石灰や苦土の吸収を妨げて石灰欠乏や苦土欠乏を引き起こす（拮抗作用という）。

### ☆肥料の種類について

・化成肥料は一つの粒に均一な成分が含まれているのに対し、BB（配合）肥料は異なる肥料成分の粒を単に混合したものである。つまり化成肥料の粒は全て同じ色をしているが、BB 肥料は複数の色の肥料が混ざり合っている。また、硫酸のように単肥（N,P,K のうち一つの成分のみを含む肥料）もある。

### ・土壌診断の必要性

土壌診断を行い、必要な成分だけを施用してやれば過剰症状を引き起こすこともなく、またコストも安く済む。養分バランスが優れた土壌にするためには土壌診断結果に則った施肥を行うことが重要である。

### あさつゆ連絡

電話番号：0268-41-1062  
FAX：0268-41-1063

### 技術事項作成協力

上小農業改良普及センター（岡崎）  
電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161